

## 算数科 2年

単元	1 せいりのしかた		4月(6時間)	
目標	身の回りの数量について、観点に着目して分類整理し、簡単な表やグラフの表し方や読み方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：D(1)ア(ア)イ(ア)】	
評価規準	(①知・技)身の回りの数量を分類整理し、簡単な表やグラフの表し方や読み方を理解している。 (②思・判・表)簡単な表やグラフの表し方や読み方を考えている。 (③主体的態度)簡単な表やグラフに関心を持ち、身の回りの数量について簡単な表やグラフを用いて考察しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○クラスのアンケートを行い、個人の結果の表し方を考え、学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">             単元のめあて              しらべたけっかを分かりやすく表そう           </div>	○結果の分かりやすい表し方について関心をもてるように、一人一人のアンケートの答えを記録する学習プリントを用意する。	◇結果の分かりやすい表し方について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。<学習プリント・発言③>
解決していく	1	○「輪投げゲーム」の結果を、表やグラフに表し、特徴を調べる。	○表やグラフを読み取ることができるように、表やグラフの枠の入った学習プリントを用意する。 ○表やグラフを用いるよさを理解できるように、表やグラフを用いて読み取ったことを話し合う時間を設定する。	◇表やグラフを用いて、1番人数の多いものや少ないものを読み取っている。<学習プリント②> ◇表やグラフに表すと、順位や入った数が分かりやすくなることを記述している。<学習プリント②>
	1	○「輪投げゲーム」の結果を、観点を変えて表やグラフに表し、特徴を調べる。	○観点を変えた表やグラフに表すよさを理解できるように、「チームごとの合計」「川ごとの合計」などの観点を提示する。	◇表やグラフを用いて、1番人数の多いものや少ないものを読み取っている。<学習プリント①>
・ま生とかめする	2	○アンケートでとったいろいろな資料を、表やグラフに表し、特徴を発表する。	○表やグラフの表し方や読み方の理解を深めることができるように、クラスの「すきな遊び」や「すきな食べ物」について表やグラフを用いて考察したことを話し合う時間を設定する。	◇表やグラフを読み取ったことを基に、クラスの傾向や感想を記述している。<学習プリント③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト①②>
<b>【備考】</b> ・簡単な表やグラフを扱う際には、絵図などのカードから、○や●などの印に徐々に抽象化するようにし、簡単に結果を表す方法やそのよさに着目できるようにする。 ・用語・記号「ひょう」「グラフ」 ・第4時で用いるアンケートは、事前にクラスでとっておく。(好きな動物、スポーツ、食べ物など)R07は、アンケートをロイロノートでとった。 ・グラフシートはカリ管室にある。				

単元	2 2けたの たし算		4月(9時間)	
目標	2位数同士の加法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(2)ア(ア)(ウ)イ(ア)】	
評価規準	(①知・技) 2位数同士の加法の計算の仕方や答えの確かめ方を理解している。 (②思・判・表) 既習の加法の計算の仕方を基に、2位数同士の加法の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 2位数同士の加法に関心をもち、進んで計算の仕方を考えようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○「陣取りゲーム1」をし、1回目と2回目の合計点の求め方を考え、単元のめあてをつかむ。(※) 単元のめあて 2けたのたし算の仕方を考えよう	○2位数同士の和について関心をもてるように、既習の加法の計算との違いを話し合う時間を設定する。	◇2位数同士の和について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言③>
	解決していく	○2位数同士の繰り上がりのない加法の計算の仕方を考える。  ○2位数同士の繰り上がりのある加法の計算の仕方を考える。  ○筆算の仕方を知り、計算練習をする。  ○加法の交換法則について考える。	○繰り上がりのない加法の計算の仕方を理解できるように、ブロック図やさくらんぼ図と式とを対応させながら計算の仕方を説明する時間を設定する。  ○繰り上がりのある加法の計算の仕方に気付けるように、「計算の順番」という視点を提示する。  ○2位数同士の加法の筆算を正確にできるように、繰り上がりのある場合やない場合のいろいろな数値の問題を提示する。  ○加法の交換法則に気付けるように、買い物の場面などで、買う順序を換えた式を提示する。	◇位ごとに分ける計算の仕方を、ブロック図やさくらんぼ図を用いて記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>  ◇繰り上がりのあるときは、一の位から計算する根拠を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>  ◇筆算をして、 <b>正確に和を求めている。</b> <ノート①>  ◇ <b>加数と被加数を入れ換えてもたし算が成り立つことを、テープ図を用いて記述している。</b> <ノート②>
・まとめ	1	○日常生活の場面をもとにした問題を考える。	○買い物の値段の計算や、テストの合計点を求めるなどの場面を設定する。	◇筆算をして、正確に和を求めている。 <ノート①>
	2	○2位数同士の加法の問題をつくらせて解き合ったり、虫食い算をしたりする。	○2位数同士の加法の筆算の仕方の理解を深められるように、繰り上がりのない加法や、繰り上がりのある加法の具体的な問題場面といろいろな虫食い算を提示する。	◇虫食いの位置を工夫した問題をつくらせたり、複数の問題を解いたりしている。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、 <b>正答を出している。</b> <テスト①②>
<b>【備考】</b> ・用語・記号 「ひっ算」「くり上げる」「たされる数」「たす数」 ・「さんすうランド」が学校にあると、ブロック等の具体物操作ができる。				
<b>(※) について</b> 「陣取りゲーム1」は、ペアでじゃんけんをして、グーで勝ったら1マス、チョキで勝ったら2マス、パーで勝ったら3マス色を塗り、塗った合計のマス数を競うゲームである。このゲームを2回行い、その合計のマス数を競うことで、2位数同士の加法の必要性が生まれる。8×8マスの陣でゲームを行うとよい。				

## 算数科 2年

単元	3 2けたの ひき算	5月(9時間)		
目標	2位数同士の減法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。 【指導事項：A(2)ア(ア)イ(ア)】			
評価規準	(①知・技) 2位数同士の減法の計算の仕方や答えの確かめ方を理解している。 (②思・判・表) 既習の加法や減法の計算の仕方を基に、2位数同士の減法の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 2位数同士の減法に関心を持ち、進んで計算の仕方を考えようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○買い物の場面において、文房具を購入した際の残額を考え、単元のためあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">単元のためあて 2けたのひき算の仕方を考えよう</div>	○2位数同士の差について関心をもてるように、既習の減法の計算との違いを話し合う時間を設定する。	◇2位数同士の差について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習シート・行動③>
解決していく	1	○繰り下がりのない2位数同士の減法の計算の仕方を考える。	○繰り下がりのない減法の計算の仕方を理解できるように、加法の計算の仕方を基に、ブロック図やさくらんぼ図と式とを対応させながら計算の仕方を説明する時間を設定する。	◇位ごとに分ける計算の仕方を、ブロック図やさくらんぼ図を用いて記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○繰り下がりのある2位数同士の減法の計算の仕方を考える。	○繰り下がりのある減法の計算の仕方に気付けるように、数ブロックやお金の模型とともに「両替」という視点を提示する。	◇繰り下がりのあるときは、十の位から一の位に10のまとまりを下ろすことを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②>
	2	○筆算の仕方を知り、2位数同士の減法の筆算の練習をする。	○2位数同士の減法の筆算を正確にできるように、繰り下がりのない場合や繰り下がりのある場合のいろいろな数値の問題を提示する。	◇筆算をして、正確に差を求めている。 <ノート①>
	1	○2位数同士の減法の答えの確かめ方を考える。	○減法の答えの確かめ方に気付けるように、「ひかれる数」「ひく数」「答え」と書かれたカードと丸図を提示する。	◇減数と被減数、答えの関係をテープ図を用いて記述している。 <ノート②>
・ま生とかめする	1	○「陣取りゲーム2」をして、2位数同士の減法の計算の仕方を活用する。(※)	○2位数同士の加減法を進んで活用できるように、陣取りゲームの用紙を複数用意する。	◇筆算をして、正確に差を求めている。 <ノート①>
	1	○買い物の場面において、文房具を購入した際の残額を考え、単元の振り返りをする。	○ひき算の筆算についての学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した活用問題を再度提示し、考える時間を十分確保する。	◇筆算を用いて計算したり、単元の振り返りに筆算を用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
<b>【備考】</b> ・用語・記号 「くり下げる」「ひかれる数」「ひく数」 ・第1時は、前単元「2けたの たしざん」の接続を意識して、導入するとよい。(合計点を求める場面) ・「筆算の練習」では、空位や欠位のある問題を提示する。 ・ブロック、おはじき、お金の模型はカリ管室にある。子どもの「さんすうらんど」にも入っている。 <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>(※) について</b>            「陣取りゲーム2」は、「陣取りゲーム1」に、ペアでマスの合計の差を求めるというルールを加えたゲームである。         </div>				

単元	4 長さの たんい		5月(10時間)	
目標	長さの表し方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：C(1)ア(ア)(イ)(ア)】	
評価規準	(①知・技) 普遍単位 (cm, mm) や測定の意味, ものさしを使った長さの測定の仕方やかき方を理解している。 (②思・判・表) 普遍単位を用いた長さの表し方を考えている。 (③主体的態度) 長さの普遍単位やそれらを用いた測定の仕方に関心を持ち, 進んで測定しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○テストの隊形になる場面で, 机の間隔を均等にすることについて考え, 単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 正らかな長さのくらべ方を考えよう	○正確な長さの比べ方について関心をもてるように, クリップやブロック, 数え棒を用意する。	◇長さの比べ方について, 疑問点やこれから考えたいことを記述したり, 発言したりしている。 <学習シート・発言③>
解決していく	1	○「飛ばしっこゲーム」でコマを飛ばした長さの比べ方を考える。	○普遍単位の必要性に気付けるように, 長さの異なる任意単位で測定した長さを2つ提示する。	◇積み木やおはじき, 数え棒の幾つ分では正確に長さを比べられない根拠を記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○「cm」を知り, 「飛ばしっこゲーム」でコマを飛ばした長さの測定の仕方を考える。	○□cmは1cmの幾つ分で考えられるように, 教科書付属の簡易ものさし(目盛りがcmのみのもの)を用意する。	◇測定した長さを1cmの幾つ分の長さとして記述している。 <ノート②>
	1	○「mm」を知り, ものさしを使った長さの測定の仕方を知り「飛ばしっこゲーム」でコマを飛ばした長さをものさしを使って測定する。	○cmやmmを用いて正確に長さを測定できるように, 始点と終点をものさしの目盛りに合わせて測定することを演示する。	◇自分や友達のコマを飛ばした長さをcmやmmを用いて測定している。 <ノート①>
	1	○cmとmmの単位換算の仕方を考え, 「飛ばしっこゲーム」でコマを飛ばした長さを□cm□mmと表したり□mmと表したりする。	○cmとmmの単位換算の仕方を理解できるように, ものさしの1cm部分の拡大図を基に単位換算した根拠を説明し合う時間を設定する。	◇単位換算した根拠を1cm=10mmを基に記述したり, 説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○「直線」の意味やそのかき方を知り, 「飛ばしっこゲーム」でコマを飛ばした長さを測り, 直線で写し取る。	○ものさしを使って長さを写し取れるように, 直線のかき方を例示し, 長さを写し取る学習プリントを用意する。	◇自分や友達のコマを飛ばした長さをものさしを使って写し取っている。 <学習プリント①>
	2	○折れ線の長さの比べ方を考え, 長さの加法や減法を練習する。	○長さの加減計算の仕方を理解できるように, 「飛ばしっこゲーム」で2回連続でコマを飛ばした長さを測る問題場を提示する。	◇長さの計算の仕方を, 1cmを基に記述している。 <ノート①>
・まとめ	1	○テストの隊形になる場面で, 机の間隔を均等にすることについて考え, 単元の振り返りをする。	○長さの学習を通して学んだことの達成感を感じられるように, 単元の導入で提示した活用問題を再度提示し, 考える時間を十分確保する。	◇cmやmm, 計算を用いて, 長さを測定したり, 単元の振り返りに普遍単位を用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト①②>

## 【備考】

- ・用語・記号 「たんい」「cm」「mm」「直線」・単位関係 「1cm=10mm」
- ・ノック式ボールペン, クリップや数え棒などはカリ管室にある。
- ・学年教材費でものさしを購入しておき, 第4時から使っているようにしておく。
- ・家庭学習で, 身の回りのものを測定する機会を設ける。

## (※) について

「飛ばしっこゲーム」とは, ノック式ボールペンでコマを飛ばし, 飛んだ距離を競い合うゲームである。距離を量として捉えられるように, スタートの位置と飛んだ位置を直線で結んでから比べるようにするとよい。

単元	5 100より 大きい 数	6月(13時間)		
目標	100までの整数の読み方、かき方、仕組みを基に、1000までの整数の読み方、かき方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(1)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)】	
評価規準	(①知・技) 1000までの整数についての読み方、かき方を理解している。 (②思・判・表) 既習の数の仕組みを基に、1000までの整数の読み方、かき方、仕組みを考えている。 (③主体的態度) 100より大きな数に関心を持ち、1000までの整数について進んで調べようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○100円、10円、1円が散らしてある写真を見て、お金を数え、百の位を知り、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 100より大きな数の正かくな数え方や仕組みを考えよう	○数の数え方や数の仕組みについて関心をもてるように、写真だけでなく、写真と同じ数のお金の模型を準備し、お金を数える時間を十分確保する。	◇お金の数え方や数の仕組みについて、疑問点やこれから考えたことを記述したり、発言したりしている。 <学習シート・発言③>
	解決していく	1 1 2 1 1 1 1 1	○100、10、1を単位に、1000までの数を数えたり、数字で表したりする。 ○0～9の数字カードを使って、空位のある3位数の表し方を考える。 ○10の幾つ分の数を求めたり、何百何十に含まれる10の数を求めたりする。 ○数直線の目盛りに当てはまる数を考える。 ○不等号や等号を知り、3位数までの大小比較をする。 ○1000までの数を、多面的に見て表す。 ○1000個の丸(●)の数え方を考え、千を知る。 ○50+70、120-30などの加減計算の仕方を考える。	○十進位取り記数法の理解を深められるように、1や10、100のお金図を提示する。 ○空位の意味に気付けるように、位の枠をかいた表を提示する。 ○10を単位にして正確に求められるように、10円の模型を用意する。 ○数直線の1目盛りの大きさに着目して考えられるように、1目盛りの大きさがいろいろな目盛りの数直線を提示する。 ○3位数までの数の大小について理解できるように、比べる2つの数を記入できる数直線を提示する。 ○1000までの数を多面的に見ることができるよう、「270は10を27こ集めた数」や「270は、300より30小さい数」などを例示する。 ○1000の仕組みを理解できるように、縦10個横100個に並んだアレイ図を用意する。 ○10のまとまりで計算をすればよいことに気付けるように、10や100のお金の模型を用意する。
・ま生とかめする	1	○0～9の数字カードを使って「大きさ比べゲーム」をし、3位数までの数の大小を不等号で表す。(※)	○3位数の大小について進んで考べられるように、3位数の大小をペアの友達と比べる「大きさ比べゲーム」を設定する。	◇不等号を使って、進んで数の大小を記述している。 <ノート③>
	1	○100円、10円、1円が散らしてある写真を見て、お金を数え、単元の振り返りをする。	○100より大きい数の学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した活用問題を再度提示し、考える時間を十分確保する。	◇10や100のまとまりを作って数を数えたり、まとまりをいしきして計算したり、単元の振り返りにまとまりを用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト①②>
【備考】 ・クリップと小分けの箱、お金の模型、数カードはカリ管室にある。 ・用語・記号 「百のくらい」「二百」「千」「1000」「><」				
<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>(※) について 『大きさ比べゲーム』とは、0～9の数字カードから3枚引き、1枚目を一の位、2枚目を十の位、3枚目を百の位として並べ、ペアの友達と数の大小を競うゲームのことである。結果は、不等号を用いてノートに記録させるとよい。</p> </div>				

単元	6 かさの たんい		6月(8時間)	
目標	かさの単位と測定の意味を理解し、かさの測定の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：C(1)ア(ア)(イ)イ(ア)】	
評価規準	(①知・技) かさの測定の仕方やかさの加法性を理解している。 (②思・判・表) 長さの測定の仕方を基に、かさの測定の仕方を考えている。 (③主体的態度) かさの測定の仕方に関心をもち、進んでかさを測定しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	2	○水を出し続けながら手洗いをすると、水をこまめに止めて手洗いをするときの水のかさの差について考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 水のかさの正確な量り方を考えよう	○水のかさの正確な測定の仕方について関心をもてるように、大きさが異なる容器を複数用意し、測定する時間を十分確保する。	◇水のかさの測定について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習シート・発言③>
	解決していく	1 ○「デシリットル(dL)」「リットル(L)」という単位について知り、容器に入った水のかさの測定の仕方を考える。 1 ○「ミリリットル(mL)」という単位について知り、ペットボトルに入った水のかさを測定する。 1 ○1L5dLの水が入っている鍋に、600mLの牛乳を入れたときの二つのかさの和の求め方を考える。 1 ○2L入るペットボトルから6dL飲んだときのかさの差の求め方を考える。	○dLやLを用いて水のかさを測定できるように、dLます、Lます、様々な量の水を用意し測定する時間を十分確保する。 ○mLを用いてかさを測定できるように、dLます、Lますの他に10mLますを用意し、測定する時間を十分確保する。 ○かさの加法では、同じ単位同士で計算をすることに気付けるように、dLますを用意し、水のかさを実測できる場を設定する。 ○かさの減法でも、同じ単位同士で計算をすることに気付けるように、dLの目盛りが記されているLますの図を提示する。	◇dL、Lを用いることで、容器に入っている水のかさを正確に測定できることについて記述している。 <学習シート①> ◇残りの水のかさに合わせて、mLを用いることで、dLよりも小さい水のかさを正確に測定できることについて記述している。 <学習シート②> ◇1dLを基に、2つのかさの和や差の求め方を記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①> ◇1dLを基に、二つのかさの差の求め方を記述している。 <ノート②>
・ま生とかめする	1	○水を出し続けながら手洗いをすると、水をこまめに止めて手洗いをするときの水のかさの差について考え、単元の振り返りをする。	○かさの学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した活用問題を再度提示し、水のかさを測定する時間を十分確保する。	◇dL、L、mLや計算を用いて、かさを測定したり、単元の振り返りに普遍単位を用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
<b>【備考】</b> ・用語・記号 「dL」「L」「1L=10dL」「mL」「1L=1000mL」「1dL=100mL」 ・各種容器、マスは、カリ管室にある。 ・過年度年計にある『水とりゲーム』に切り替えて、実施することも考えられる。 ・家庭学習で、身の回りのものから、かさの単位が使われているものを探す機会を設ける。				

## 算数科 2年

単元	7 時こくと時間			7月(7時間)
目標	日常生活における時間の使い方に関心を持ち、時刻や時間の求め方を考え、時刻や時間の単位やそれらの関係を理解し、進んで生活や学習に活用する。			【指導事項：C(2)ア(ア)イ(ア)】
評価規準	(①知・技)時刻と時間の意味の違いや、日、時間、分の関係を理解している。 (②思・判・表)時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方を考えている。 (③主体的態度)日常生活の時間の使い方に関心を持ち、時間の使い方を工夫したり、時間の過ごし方について努力して改善しようとしていたりしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○お楽しみ会の計画について考え、「時刻」と「時間」の意味を知り、学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">単元のめあて 時こくや時間の求め方を考えよう</div>	○時刻や時間の求め方について関心をもてるように、生活の様子を表した場面絵(時計入り)を提示する。	◇時刻や時間の求め方について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習シート・発言③>
解決していく	1	○生活の様子を表した場面絵から、「1時間=60分」を知り、2つの時刻の間の時間の求め方を考える。	○時間の求め方に気付けるように、答えがそれぞれ30分未満、30分以上1時間未満、1時間以上になる問題場面を提示する。	◇5分、30分、60分を基にして考えた根拠を記述している。 <ノート②>
	1	○生活の様子を表した場面絵から、「午前」、「午後」、「1日=24時間」を知り、時刻を求める。	○午前や午後を使って時刻を正しく求められるように、生活の様子を表した場面絵に対応した数直線を提示する。	◇午前、午後を使い、時刻を正しく求めている。<ノート①>
	1	○ある時刻から一定時間前後の時刻の求め方を考える。	○時刻の起点から終点までの量の大きさに着目できるように、時刻が書かれた数直線や時計の文字盤を用意する。	◇時計の文字盤や数直線を基に、ある時刻から一定時間後の時刻の求め方を記述している。 <ノート①>
・ま生とかめする	2	○お楽しみ会の計画を作り、時間の使い方について話し合う。	○時刻と時間の学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した活用問題を再度提示し、お楽しみ会の計画を立てる時間を十分確保する。	◇時刻や時間を用いて、計画を立てたり、単元の振り返りに時刻や時間を用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「1日=24じかん」「1じかん=60ぷん」「じこく」「じかん」「ごぜん」「しょうご」「ごご」 ・時間は、時刻のある点からある点までの間隔の大きさを表す量である。時刻と時間を区別して指導する。 ・十分に習熟できるよう、日常的に扱ったり、「時計すごろくゲーム」(※)をしたりした上で、まとめのテストを行うとよい。 ・R5まとめのテストは、時計の模型を使って行った。R6、R7は使っていない。 ・過年度年計にある『時計すごろくゲーム』に切り替えて、実施することも考えられる。				

単元	8 たし算のひっ算		9月(10時間)	
目標	百の位まで繰り上がる2位数までの加法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(2)ア(ア)(イ)(ア)】	
評価 規準	(①知・技) 百の位まで繰り上がる2位数+2位数の筆算の仕方や加法の結合法則と( )の意味を理解している。 (②思・判・表) 十進位取り記数法を基に、百の位まで繰り上がる2位数+2位数の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 百の位まで繰り上がる2位数+2位数の計算に関心をもち、進んで計算しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○買い物の場面から、2位数の金額の2つの商品の合計金額を考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて _____ 百の位までのたし算の仕方を考えよう	○百の位まで繰り上がる2位数までの加法について関心をもてるように、60円、50円、85円、35円、67円、73円のようないろいろな金額のお菓子カードを用意する。	◇百の位まで繰り上がる2位数までの加法について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習シート・発言③>
解決していく	1	○85+42のような2位数+2位数(十の位のみ繰り上がりあり)の筆算の仕方を考える。	○百の位への繰り上がりの仕方を理解できるように、「計算する位の順序」を視点として提示する。	◇一の位から順に位ごとに数をたせばよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○85+47のような2位数+2位数(一の位と十の位繰り上がりあり)の筆算の仕方を考えたり、計算練習をしたりする。	○2位数+2位数の筆算を正確にできるように、いろいろな2位数同士の加法に取り組む時間を確保する。	◇2位数+2位数の筆算を正確にしている。 <ノート①>
	1	○69+38のような波及的な繰り上がりのある場合の計算の仕方を考える。	○波及的な繰り上がりの仕方に気付けるように、お金図と位ごとの枠を提示する。	◇十進位取り記数法を基に、波及的な繰り上がりの仕方を記述している。 <ノート②>
	1	○28+35+15のような式の簡単な計算の仕方を考え、( )の意味を知る。	○加法の結合法則に気付けるように、A店で73円と35円、B店で85円のお菓子を買う問題場面とA店で35円と85円、B店で73円のお菓子を買う問題場面を用意する。	◇加法では足す順序を変えても和は変わらないことを記述したり説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○3口の加法の計算練習をする。	○加法の結合法則を用いて計算できるように、2つの項を足すと何十または何百何十になるいろいろな数値を含んだ式を用意する。	◇加法の結合法則を用いて計算している。 <ノート①>
1	○327円のパンと68円のクッキーの合計金額を求めるなどの場面から、3位数+1・2位数の筆算練習をする。	○3位数+1・2位数の筆算を正確にできるように、いろいろな数値の3位数+1・2位数に取り組む時間を確保する。	◇3位数+1・2位数の筆算を正確にしている。 <ノート①>	
・ま 生と かめ する	2	○買い物の場面をもとに、「買い物ごっこ」し、単元のめあて振り返りをする。	○たし算のひっ算の学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した活用問題を再度提示し、考える時間を十分確保する。	◇筆算を用いて計算したり、単元の振り返りに筆算を用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>

## 【備考】

- ・お金の模型はカリ管室にあるので活用するとよい。(子どもの算数セットにもある)
- ・まとめのテストは、ひき算のひっ算と一緒にしている。(R06, R07)
- ・実習も重なるため、宿題等に利用できるプリントを準備し、問題練習を宿題として、習熟をはかる。

(※)について

「買い物ごっこ」とは、ペアで客と店員に分かれ、設定されたセリフを基に、客が店員に買いたい商品の合計金額を問い、店員がそれに答え、客がお金の模型で金額を支払うという活動である。

## 算数科 2年

単元	9 ひき算の ひっ算			9月(8時間)
目標	3位数(百の位が1)から1・2位数をひく繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。			【指導事項:A(2)ア(ア)(イ)イ(ア)】
評価規準	(①知・技)百の位から繰り下がる3位数-1・2位数の筆算の仕方を理解している。 (②思・判・表)十進位取り記数法を基に、百の位から繰り下がる3位数-1・2位数の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度)百の位から繰り下がる3位数-1・2位数の計算に関心をもち、進んで計算しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○買い物の場面において、3位数のお小遣いから2位数の金額の商品を買ったときのおつりを考え、学習のめあてをつかむ。(※買い物ごっこ2)  単元のめあて 百の位までのひき算の仕方を考えよう	○3位数(百の位が1)から2位数をひく繰り下がりのある減法に関心をもてるように、135円のお小遣いと、50円、85円、67円、73円のようないろいろな金額のお菓子カードを用意する。	◇3位数(百の位が1)から2位数をひく繰り下がりのある減法について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習シート・発言③>
	解決していく	1 1 1 1	○134-53のような3位数-2位数(百の位からのみの繰り下がりあり)の筆算の仕方を考える。 ○134-58のような3位数-2位数(百の位や十の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を考える。 ○102-67のような百の位から波及的に繰り下がる場合の筆算の仕方を考える。 ○582人中63人がむし歯であることからむし歯でない子どもの人数を求めるなどの場面から、3位数-1・2位数の筆算練習をする。	○百の位からの繰り下がりの仕方に気付けるように、100円玉を10円玉10枚に両替する様子を例示する。 ○百の位や十の位からの繰り下がりのある筆算の仕方を理解できるように、「計算する位の順序」を視点として提示する。 ○波及的な繰り下がりのある筆算の仕方に気付けるように、お金図と位ごとの枠を提示する。 ○3位数-1・2位数の筆算を正確にできるように、いろいろな数値の3位数-1・2位数に取り組む時間を確保する。
ま生とかめする	1	○2位数+2位数や3位数-2位数などの筆算の式や答えの数から、空欄にあてはまる数値を求める。	○2位数+2位数や3位数-2位数の筆算の仕方の理解を深められるように、空位や欠位のある減法の問題を用意する。	◇十進位取り記数法を基に、空欄にあてはまる数の根拠を記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○買い物の場面において、3位数のお小遣いから2位数の金額の商品を買ったときのおつりを考え、学習のめあてをつかむ。(※買い物ごっこ3)	○たし算のひっ算の学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した活用問題を再度提示し、考える時間を十分確保する。	◇筆算を用いて計算したり、単元の振り返りに筆算を用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・お金の模型はカリ管室にあるので活用するとよい。(子どもの算数セットにもある) ・テストは、たし算のひっ算と一緒にしている。(R06, R07) ・実習も重なるため、宿題等に利用できるプリントを準備し、問題練習を宿題として、習熟をはかる。				
<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>(※)について 「買い物ごっこ2」とは、ペアで客と店員に分かれ、設定されたセリフを基に、客が買いたい商品を2つ選んで135円を支払い、店員がそのお釣りを客に渡すという活動である。 「買い物ごっこ3」とは、子どもたちが2けたの値段のお菓子カードを作り、模型のお金を使って買い物をするという活動である。合計金額やお釣りを計算する際、ノートに式や筆算を書いて確かめるようにする。また、買う商品の数は2つで、お釣りが出るように、500円や135円など、客の持つ金額を予め設定しておけるとよい。</p> </div>				

単元	10 三角形と四角形		10月(11時間)	
目標	ものの形から三角形や四角形を考察し、三角形、四角形、正方形、長方形、直角三角形について理解する。		【指導事項：B(1)ア(7)(イ)(7)】	
評価規準	(①知・技) 三角形、四角形、正方形、長方形、直角三角形の意味や特徴を理解している。 (②思・判・表) 色板や色紙等を使って、ものの形を三角形や四角形として捉えている。 (③主体的態度) 三角形や四角形に関心を持ち、形づくりをしたり、身の回りから、特徴のある三角形や四角形を進んで見付けたりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」				
つかむ	1	○「動物囲いゲーム」をしてできた形の特徴を考え、学習のめあてをつかむ。(※) 単元のめあて いろいろな三角形や四角形の特徴を調べよう	○いろいろな三角形や四角形に関心をもてるように、三角形や直角三角形、正方形や長方形となるような点の配列のされたゲーム用紙を用意する。	◇いろいろな三角形や四角形について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○「辺」や「頂点」を知り、いろいろな形から三角形や四角形を弁別する。	○三角形や四角形の定義や特徴を理解できるように、いろいろな三角形や四角形、角が丸まっていたり辺が離れていたりにしている三角形や四角形ではない形を提示する。	◇弁別した根拠として、三角形の定義や特徴を記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○三角形や四角形を1本の直線で切り、どのような形ができるかを調べる。	○切り方を変えて、いろいろな三角形や四角形を作れるように、合同な三角形や四角形の色紙を複数用意する。	◇ <b>辺や頂点に着目し、いろいろな三角形や四角形をつくっている。</b> <学習プリント②>
	1	○色紙を使って、直角をつくり、身の回りから直角を探す。	○身の回りから進んで直角を見付けられるように、ノートや名札など直角の含まれる物を例示する。	◇進んで身の回りから直角を見付けようとしている。 <行動③>
	1	○色紙を使って、長方形をつくり、長方形の特徴を調べる。	○長方形の性質を理解できるように、いろいろな大きさの長方形の色紙を用意する。	◇長方形の色紙を操作しながら、向かい合う辺の長さが等しいことを記述したり、説明したりしている。<ノート・発言①>
	1	○正方形を知り、いろいろな四角形から正方形を弁別する。	○正方形の意味を理解できるように、いろいろな大きさの正方形の色紙を用意する。	◇すべての角が直角で、すべての辺の長さが等しいという正方形を弁別した根拠を記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○長方形や正方形を対角線で分割して直角三角形を知り、いろいろ三角形の中から直角三角形を弁別する。	○直角三角形の定義を理解できるように、「直角」という視点を提示する。	◇弁別した根拠として直角があることを記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○図形をかく手順をプログラムし、辺の長さの条件に合った正方形、直角三角形を作図する。(B)	○直角の構成要素に着目し、長方形や正方形、直角三角形を作図できるように、方眼紙を用意する。	◇ <b>長方形や正方形、直角三角形の定義や性質を基に、作図している。</b> <ノート②>
・まとめ	1	○合同な正方形や長方形、直角二等辺三角形の色板を使って、いろいろな形をつくる。	○模様的美しさや平面の広がり気付けるように、敷き詰め方を例示する。	◇模様的美しさや平面の広がりについて記述している。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
<b>【備考】</b> ・用語・記号 「三角形」「四角形」「直角」「直角三角形」「正方形」「長方形」「辺」「頂点」 ・学年教材費でものさしを購入しておき、第4時から使っていけるようにしておく。 ・実習単元				
<b>(※) について</b> 「動物囲いゲーム」とは、動物の周りに複数の点を付けておき、じゃんけんをして勝ったら一本ずつ線を引いて囲まれた動物の数を競うゲームである。点の結び方によって、いろいろな三角形や四角形を構成することができる。				

## 算数科 2年

単元	11 かけ算九九づくり		11月(24時間)	
目標	乗法が用いられる場合を考え、乗法の意味や乗法九九の構成の仕方を理解し、進んで生活や学習に活用する。			【指導事項：A(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)イ(ア)(イ)】
評価規準	(①知・技)乗法が累加の場面で用いられることや、乗法の意味や乗法九九の構成の仕方を理解する。 (②思・判・表)「1つ分の大きさ」や「幾つ分」を基に、乗法が用いられる場合を考えている。 (③主体的態度)乗法に関心を持ち、進んで乗法を用いようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○家庭学習で取り組んだ漢字練習の行の合計を考え、乗法の立式の仕方を知り、単元のめあてをつかむ。(※) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">           単元のめあて            かけ算の意味や計算の仕方を考えよう         </div>	○乗法に関心をもてるように、5行を9日行った場合と、2~9行をバラバラに30日行った場合を設定する。	◇乗法について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習シート・発言③>
解決していく	1	○写真やイラストから、かけ算を探す。	○教科書のイラストのような、かけ算を探せるような場면을提示する。	◇写真やイラストをもとに、乗法の式を立てている。 <ノート・発言①>
	1	○乗法の交換法則について考え、かけ算の式の意味を知る。	○かけ算探しの困り感を共有する場面を設定する。	◇1つ分の大きさ×幾つ分になっていることを記述している。 <ノート①>
	18 (2×9)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           ①問題場面を基に、□の段の九九を構成し、□の段のきまりを見付ける。            ②□の段の九九の唱え方を知り、順に唱えたり、逆に唱えたりする。            二、五、三、四、六、七、八、九、一の段の順に上記の学習を繰り返す。         </div>	○各段の並び方のきまりを見付けられるように、既習の段の構成の仕方や並び方のきまりを提示したり、規則性を見付け方を例示したりする。	◇乗数が1ずつ増えると、積が被乗数ずつ増えていることや、一の位の規則性を記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>  ◇各段をリズムよく唱えている。 <行動①>
・ま生とかめする	1	○乗法九九を表にまとめ、それぞれの乗法の式の意味や唱え方を確認する。	○乗法の意味の理解を深められるように、乗法九九を表にまとめる際にその式が表す具体的な場면을例示する。	◇乗法の式から「1つ分の大きさ」の「幾つ分」であることを記述している。 <ノート①>
	1	○家庭学習で取り組んだ漢字練習の行の合計を考え、単元の振り返りをする。	○かけ算の学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した活用問題を再度提示し、考える時間を十分確保する。	◇かけ算を用いて計算したり、単元の振り返りにかけ算を用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
<b>【備考】</b> ・用語・記号 「×」「かけ算」「九九」「かけられる数」「かける数」「1つ分の数」「いくつ分の数」「□倍」 ・すべての段の九九の構成を一つの段ごとに模造紙にまとめて教室掲示しておくことよい。「かけ算九九づくり」や「かけ算のきまり」で活用できる。 ・学年教材費でものさしを購入しておき、第4時から使っていけるようにしておく。 ・「かけ算九九カード」と「かけ算の王様(認定)カード」を準備し、習熟を図れるようにするとよい。「かけ算九九カード」は、音読カード同様の扱いで、家庭での練習を促す。「かけ算の王様カード」は、休み時間等の際、子どもが担任や副担任に自発的にテストを申し出、合格したらシールを貼るというカードである。3学期末までの合格を目指し、随時子どもたちにテストを促していけるとよい。 ・単元テストは、次単元の「かけ算」の後に行う。(2~5の段で1枚、1と6~9の段で1枚の計2枚) ・過年度年計にある『じゃんけんゲーム』に切り替えて、実施することも考えられる。				

単元	12 かけ算		11月(12時間)
目標	乗法が用いられる場合を考え、乗法の意味や乗法九九の構成の仕方の理解を深め、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)イ(ア)(イ)】
評価規準	(①知・技) 被乗数と積の関係や乗法九九の構成の仕方、倍の意味を理解している。 (②思・判・表) 九九表を基に、被乗数と積の関係や乗法九九の構成の仕方、倍の意味を考えている。 (③主体的態度) 乗法に関心をもち、進んで乗法を用いようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○「じゃんけんゲーム3」をして、合計点の求め方を考え、単元のめあてをつかむ。(※) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">             単元のめあて              かけ算をもっととくいになろう           </div>	○乗法の習熟に関心をもてるように、「じゃんけんゲーム3」という活動を設定する。
解決していく	1	○乗法九九のカードを使って、唱え方を練習したり友達と問題を出し合ったりする。	○どの段も正しく唱えることができるように、複数の段のカードを混ぜたカードをクラス全体やペア、グループで唱え合う時間を十分確保する。
	1	○乗法九九のカードを使った「大きさ比べゲーム」をして、それぞれの乗法の積の大きさを比べる。(※)	○乗法九九の構成の仕方の理解を深められるように、乗法の式の大小比較をした根拠を伝え合う活動を設定する。
	1	○乗法九九のカードを使った「カード取りゲーム1」をして、乗法の式に対する積を探す。(※)	○正確に積を求められるように、九九表を基に積を確認する時間を確保する。
	2	○乗法九九のカードを使った「カード取りゲーム2」をして、積に対する乗法の式を考える。(※)	○積が等しくなる乗法九九があることに気付けるように、24や36などのような複数の式が考えられる積を提示する。
	2	○「かけ算ビンゴゲーム」をして、乗法の式に対する積を求める。(※)	○進んで乗法九九を唱えられるように、ビンゴの際はペアで答えを確認する活動を設定する。
・まとめ	1	○「かけ算しりとり」をして、乗法の計算練習をする。(※)	○5の段の積は一の位が0になることがあることを理解できるように、「一の位が0になったら負け」というルールを提示する。
	2	○乗法の問題をつくり、友達と解き合う。	○いろいろな乗法の問題場面を考えようとするができるように、買い物場面や倍の場面などの問題を例示する。
・まとめ	1	○まとめのテストを2枚行う。	◇進んで乗法九九を唱えている。 <行動③> ◇偶数×5(5×偶数)の積は、一の位が0になることなどを記述している。 <ノート①> ◇進んで乗法の問題をつくったり、友達の問題を解いたりしている。 <ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
<b>【備考】</b> ・「かけ算」で九九の構成をまとめた模造紙や九九表を積極的に活用するとよい。			
<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px;"> <p>(※)について</p> <p>「じゃんけんゲーム3」…ペアでじゃんけんを9回する。1回勝つごとの得点は1～9から自由に決める。振り返りの際、各ペアの結果をフラッシュカードで素早く提示していくことで、乗法の習熟がまだ不十分であることを実感できるようにしたい。</p> <p>「大きさ比べゲーム」…ペアで行う。乗法九九カードを1枚取って同時に開き、どちらの式の積が大きいか競う。</p> <p>「カード取りゲーム1」…カルタ形式で行う。授業者が式を発表し、その積になる数を素早く取る。</p> <p>「カード取りゲーム2」…カルタ形式で行う。授業者が積を発表し、その式を素早く取る。式は複数ある場合がある。</p> <p>「かけ算ビンゴゲーム」…九九表を基に、ビンゴ用紙に積を書いて、発表された式に当たる積を塗りつぶす。</p> <p>「かけ算しりとり」…<math>3 \times 4 = 12</math>, <math>2 \times 9 = 18</math>, <math>8 \times 7 = 56</math>のように、積の一の位の数をつなげていく。同じ式は作らずなるべく多く続けられたグループの勝ち。</p> </div>			

## 算数科 2年

単元	13 長いものの長さのたんい		12月(8時間)
目標	長さの単位の関係を理解し、長い長さの測定の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：C(1)ア(ア)(1)イ(ア)】
評価規準	(①知・技) mとcmの単位の関係や長い長さの測定の仕方を理解している。 (②思・判・表) mという単位を用いて、長い長さの測定の仕方を考えている。 (③主体的態度) 長い長さに関心をもち、進んで身の回りの長さを測定しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○北校舎の教室と南校舎の教室の縦と横の長さを比較する問題場面から、単元のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">単元のめあて 長い長さの測り方を考えよう</div>	○長い長さの測り方に関心をもてるように、30cmものさしを用意する。
解決していく	1	○100cm=1mを知り、教室にあるいろいろなものの長さの表し方を考える。	○mを用いると小さい数で長さを表せるというよさに気付けるように、mを用いた長さの表し方とcmのみを用いた長さの表し方を提示する。
	1	○1mものさしを使って、教室にあるいろいろなものの長さを測定する。	○1mものさしを使って長さを測定できるように、1mを超える長さの幅である棚を複数提示する。
	1	○壁と柱で凹凸がある教室の縦の長さを測定する場面で、正確な縦の長さの求め方を考える。	○同じ単位同士でまとめる長さの表し方に気付けるように、「単位」を視点として提示する。
	1	○教室の縦の長さや横の長さを比べる場面で、教室の縦の長さや横の長さの差の求め方を考える。	○繰り下がりのある長さの減法計算の仕方を理解できるように、教室の縦と横の長さを書き入れたテープ図を提示する。
	1	○cmやmの混じった長さの簡単な加減計算をする。	○1mを超える長さの簡単な加減計算を正確にできるように、1mを超える長さの幅がある棚が複数載ったカタログを提示する。
・ま生とかめする	1	○北校舎の教室と南校舎の教室の縦と横の長さを比較する問題場面から、単元の振り返りをする。	○長さの学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した活用問題を再度提示し、考える時間を十分確保する。
	1	○まとめのテストを行う。	
【備考】 ・用語・記号「m」 ・単位関係「1m=100cm」 ・1mものさしを用いる際には、2人組で使えるように必要数を用意する。また、天井の高さ、廊下の幅など、身近な長さを扱うようにし、測定する前に予想する場を設けると長さの量感をもてるようになる。 ・1mものさしは、カリ管室にある。 ・単元を通して、過年度の『教室の様態替え』を行うこともできる			

評価規準&lt;評価方法(観点)&gt;※太字は「記録に残す評価」

◇長い長さの測り方について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。  
<学習シート・発言③>

◇mを用いると小さい数で長さを表せるというよさを記述したり、発言したりしている。 &lt;ノート・発言②&gt;

◇1mものさしを使って測定している。  
<ノート・行動①>◇同じ単位同士でまとめれば、2つの長さの和を表せることを記述している。  
<ノート②>◇1m=100cmに直して、長さの減法計算をすればよいことを記述したり、説明したりしている。  
<ノート・発言①>◇1mを超える長さの加減計算を正確にしている。  
<ノート①>

◇mを用いて計算したり、単元の振り返りにmを用いるよさを記述したりしている。&lt;行動・学習シート①②③&gt;

◇6割以上の問題について、正答を出している。  
<テスト①②>

## 算数科 2年

単元	14 1000より 大きい数			1月(10時間)
目標	4位数の構成や表し方, 何百と何百の加減計算の仕方を考え, 進んで生活や学習に活用する。			【指導事項: A(1)ア(1)(ウ)イ(ア)】
評価規準	(①知・技) 10000までの整数の表し方や相対的な大きさ, 何百と何百の加減計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 十進位取り記数法を基に, 10000までの整数の構成や表し方, 何百と何百の加減計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 10000までの整数に関心を持ち, 進んで調べようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○1000円, 100円, 10円, 1円が散らしてある写真を見てお金を数え, 千の位を知り, 単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 1000より大きな数の正確で簡単な数え方や比べ方を考えよう	○1000より大きい整数の数え方や比べ方に関心をもてるように, 写真と同じ7476円のお金の模型を用意する。	◇1000より大きい整数の数え方や比べ方について, 疑問点やこれから考えたいことを記述したり, 発言したりしている。 <学習シート・発言③>
	解決していく	1	○千の位を知り, 空位を含むいろいろな4位数を読んだり書いたりする。	○いろいろな4位数を正確に読んだり書いたりできるように, 空位を含む数字や漢数字で表した4位数を提示する。
	1	○100を10個以上集めた数を考える。	○100を10個でまとめて1000にすればよいことに気付けるように, 模型の100円玉10枚と1000円札1枚を提示する。	◇100が10個で1000になることを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○何千何百を構成する100や10の数を考える。	○十進位取り記数法の理解を深められるように, 100円玉10枚と10円玉10枚のお金の模型を提示する。	◇十進位取り記数法を基に, 10や100の幾つ分になる根拠を記述したり, 説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○10000の大きさや構成を知り, 10000までの数を数直線上に表す。	○10000の大きさや構成に関心をもてるように, 10000個のアレイ図を提示する。	◇進んでアレイ図の数を予想したり, 数を数直線上に表そうとしたりしている。 <発言・行動③>
	1	○10000までの数の順序や系列, 大小比較の仕方を考える。	○順序や系列, 大小比較の根拠に気付けるように, 数直線図を提示する。	◇数直線図を基に, 順序や系列, 大小比較の根拠を記述している。 <ノート②>
	1	○5900のいろいろな表し方を考える。	○いろいろな表し方があることに気付けるように, 100や1000の幾つ分という表し方を例示する。	◇100や1000などの数を基にした5900の表し方を記述したり, 説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○700円と500円の合計や差を求める場面で, 何百と何百の加減計算の仕方を考える。	○100のまとまりに着目して, 何百と何百の加減計算の仕方に気付けるように, 100円のお金の模型や数直線図を提示する。	◇100のまとまりに着目して, 何百と何百の加減計算を百の位同士の計算に置き換えて計算している。 <ノート①>
・ま生とかめする	1	○1000円, 100円, 10円, 1円が散らしてある写真を見てお金を数え, 単元の振り返りをする。	○1000より大きい数の学習を通して学んだことの達成感を感じられるように, 単元の導入で提示した活用問題を再度提示し, 考える時間を十分確保する。	◇10や100, 1000のまとまりを作って数を数えたり, まとまりを意識して計算したり, 単元の振り返りにまとまりを用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「千のくらい」「一万」「10000」「数の線(数直線)」 ・お金の模型はカリ管室にある。 (RO4は, お金の模型を1年生と使う時期が重なったため, 「かけ算のきまり」と時期を入れ替えた) ・第5時は, カリ管データにあるスライド(パワーポイント)を活用するとよい。 ・過年度年計にある『お金つかみゲーム』に切り替えて, 実施することも考えられる。				

## 算数科 2年

単元	15 たし算とひき算のかんけい		1・2月(7時間)	
目標	加法や減法を用いる場面の数量関係をテープ図や式に表す方法を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(2)ア(イ)イ(ア)】	
評価規準	(①知・技)問題場面のテープ図の表し方や加法と減法の相互関係を理解している。 (②思・判・表)問題場面をテープ図に表して、加法と減法の相互関係や式の表し方を考えている。 (③主体的態度)加法と減法の相互関係に関心を持ち、進んで加法や減法の問題場面をテープ図や式に表そうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
つかむ	1	○たし算かひき算かを間違えないための方法について考え、テープ図を知り、単元のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">           単元のめあて            お話をテープ図に表して、たし算かひき算かを考えよう         </div>	○問題場面の式の表し方について関心をもてるように、加法の逆思考、減法逆の減法、減法の逆思考などの問題場面を用意する。	◇問題場面の表し方について、疑問点やこれから考えたことを記述したり、発言したりしている。 <学習シート・発言③>
	解決していく	1	○問題場面から、加法の逆思考( $a+x=b$ , $b-a=x$ )の式の立て方を考える。	○テープ図を基に、加法の逆思考の問題場面の立式ができるように、問題場面の数量関係を表したテープ図を提示する。
・ま生とかめする	1	○問題場面から、減法逆の減法( $a-x=b$ , $a-b=x$ )の式の立て方を考える。	○テープ図を基に、減法逆の減法の問題場面の数量関係を捉えられるように、全部の数を表したテープ図を提示する。	◇テープ図を基に、逆思考の式が減法になる根拠を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○問題場面から、減法の逆思考( $x-a=b$ , $a+b=x$ )の式の立て方を考える。	○テープ図を基に、減法の逆思考の問題場面の数量関係を捉えられるように、未知数を表したテープ図を提示する。	◇テープ図を基に、減法逆の減法と減法の逆思考との違いを記述している。 <ノート②>
・ま生とかめする	1	○重なりや落ちのある順番の問題を考える。	○重なりや落ちのある場面をテープ図で表すことができるように、問題場面の数量関係を表した丸図を提示する。	◇重なりがある場合は式に $-1$ 、落ちがある場合は式に $+1$ をする根拠を、テープ図を基に記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○たし算かひき算かを間違えないための方法について考え、テープ図を知り、単元の振り返りをする。	○たし算とひき算のかんけいの学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した活用問題を再度提示し、考える時間を十分確保する。	◇テープ図を使って問題場面を表したり、単元の振り返りにテープ図を用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
1	○まとめのテストを行う。			◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「加法の逆思考」とは、順思考の式では加法になるが、答えを求める式は減法になるものである。          第2時の問題場面例「きのうペットボトルを12こあつめました。今日もあつめたら合わせて30こになりました。今日あつめたペットボトルは何こでしょう。」</li> <li>・「減法逆の減法」とは、順思考の式も答えを求める式も減法であるが、それぞれ異なる式になるものである。          第3時の問題場面例「すすめが18わいました。何羽かとんでいったので、のこりは7羽になりました。とんでいったすすめは何羽でしょう。」</li> <li>・「減法の逆思考」とは、順思考の式では減法になるが、答えを求める式は加法になるものである。          第4時の問題場面例「こうえんに子どもが何人かいました。9人帰ったら、のこりが6人になりました。子どもははじめに何人いたでしょう。」</li> </ul>				

単元	16 かけ算のきまり		2月(11時間)
目標	乗法について成り立つ性質やきまり, 12までの2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考え, 進んで生活や学習に活用する。		【指導事項: A(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)イ(ア)】
評価規準	(①知・技) 乗法について成り立つ性質やきまりを理解している。 (②思・判・表) 乗法について成り立つ性質やきまり, 12までの2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 乗法について成り立つ性質やきまりを進んで見付けようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○学習発表会の保護者用の椅子の準備数について考え, 単元のめあてをつかむ。 単元のめあて _____ かけ算のきまりを使って九九を広げよう	○既習の乗法九九を活用することができるように, $6 \times 11$ が6列と, $6 \times 12$ が2列と $6 \times 11$ が4列といった場面を設定する。
	解決していく	○九九表を見て, 乗法について成り立つ性質やきまりを見付ける。 ○九九表を見て, 2つの段の間に成り立つきまりについて考える。(乗法の分配法則) ○九九表を見て, 同じ積が2つある数について考える。(乗法の交換法則) ○12まで拡張した九九表を見て, 被乗数や乗数が10のときの積が何十になる根拠を考える。 ○みかんを1人に3個ずつ, 12人に配るときのみかんの個数を求める場面と, 1チーム11人でサッカーをするとき, 4チームでの人数を求める場面から, 1位数と12までの2位数との乗法の計算の仕方と, 12までの2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考える。 ○被乗数と乗数を12まで拡張した九九表を構成する。	○乗法について, 成り立つ性質やきまりに気付けるように, 縦や横, 斜め, 十の位の数字, 一の位の数字などの視点を提示する。 ○△の段と□の段の積の和は $(\Delta + \square)$ の段の積になることを理解できるように, 九九表を行ごとに切ったカードを用意する。 ○乗法の交換法則を理解できるように, アレイ図 ( $3 \times 5$ , $5 \times 3$ ) を提示する。 ○被乗数や乗数が10のときの積は何十になることを理解できるように, 10円のお金の模型を用意する。 ○ $3 \times 9$ の積から同数累加をする求め方や, 11を4回足したり $4 \times 11$ として考えたりする求め方に気付けるように, 11の段まで広げた九九表を用意する。 ○乗法について成り立つ簡単な性質やきまりを基に九九表を構成できるように, 乗法の分配法則や交換法則を提示する。
・まとめ	1	○12個のチョコレートを箱に入れたときのきれいな並べ方を考える。	○12をいろいろな数の積として見られるように, 内容量の同じいろいろな形の箱を提示する。
・まとめ	1	○チョコレートの数を求める場面から, 乗法を活用した点の数の求め方を考える。	○乗法を活用した, チョコレートの数の求め方を進んで見付けようとするように, 補助線を引けるドット図を複数用意する。
・まとめ	1	○学習発表会の保護者用の椅子の準備数について考え, 単元の振り返りをする。	○かけ算のきまりの学習を通して学んだことの達成感を感じられるように, 単元の導入で提示した活用問題を再度提示し, 考える時間を十分確保する。
・まとめ	1	○まとめのテストを行う。	
<b>【備考】</b> ・10の段や11の段, 12の段については定着を図るものではない。九九(乗法)について広がりをもたせられるとよい。 ・過年度年計にある『九九表パズル』に切り替えて, 実施することも考えられる。 ・テストは, 分数と一緒にしている。(R07)			

評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇乗法九九のきまりについて, 疑問点やこれから考えたいことを記述したり, 発言したりしている。  
 <学習シート・発言③>

◇乗法について成り立つ性質やきまりについて記述したり, 発言したりしている。  
 <ノート・発言②>

◇△の段と□の段の積の和は  $(\Delta + \square)$  の段の積になることを記述したり, 説明したりしている。  
 <ノート・発言①>

◇1つのアレイ図から, 2つの乗法の式が読み取れることを記述したり, 説明したりしている。  
 <ノート・発言①>

◇10の幾つ分だから  $10 \times \square$  の積は, □の末位に0を付ければよいことを記述したり, 説明したりしている。  
 <ノート・発言①>

◇27から3を3回たして求めればよいことや, 11を4回たしたり  $4 \times 11$ をすればよいことを記述したり, 発言したりしている。  
 <ノート・発言②>

◇乗法について成り立つ簡単な性質やきまりを基に, 空欄に当てはまる数を記述している。  
 <学習プリント①>

◇ $1 \times 12$ ,  $2 \times 6$ ,  $3 \times 4$ ,  $4 \times 3$ ,  $6 \times 2$ ,  $12 \times 1$ のアレイ図をかいている。  
 <ノート①>

◇乗法を活用して進んで式に表し, 点の数の求め方を複数見付けようとしている。  
 <ノート③>

◇テープ図を使って問題場面を表したり, 単元の振り返りにテープ図を用いるよさを記述したりしている。  
 <行動・学習シート①②③>

◇6割以上の問題について, 正答を出している。  
 <テスト①②>

単元	17 分数		2月(6時間)
目標	分割分数の意味や表し方を考え、1つのものを等分した大きさを分割分数で表す。		【指導事項：A(1)ア(カ)イ(ア)】
評価規準	(①知・技) 1/2や1/4, 1/8について、分割分数の意味や表し方を理解している。 (②思・判・表) 1/2や1/4, 1/8について、分割分数の意味や表し方を考えている。 (③主体的態度) 分割分数を用いるよさが分かり、1つのものを等分した大きさを分割分数で表そうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○家族で仲よくピザを分ける問題場面から、等分する大きさを考え、「分数」を知り、単元のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             単元のめあて              1つのものを同じ大きさに分ける分数の仕組みについて考えよう           </div>	○分数に関心をもてるように、家族で仲よくピザを分ける場面を設定し、ピザに見立てた円を分ける活動を十分確保する。
解決していく	3	○長方形や円、24個のおはじきなどを使い、1/2や1/4、1/8などの大きさの表し方を考える。	○いろいろな大きさや形の分数があることに気付けるように、正方形の折り紙や長方形、円といった形の紙、30cmの紙テープ、24個のおはじき、3×4のドット図を準備する。  ○もとの大きさの写真、1/○で表した時の写真を記録できる学習シートをタブレットで用意する。  ○もとの大きさに着目できるように、1/2や1/4といった同じ分数を表したものの同士を比較する機会を設定する。
・ま生とかめする	1  1	○家族で仲よくピザを分ける問題場面を考え、単元の振り返りをする。  ○まとめのテストを行う。	○分数の学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、単元の導入で提示した問題場面を再度提示し、考える機会を設定する。
<b>【備考】</b> ・用語・記号 「分数」「1/2」「1/4」「1/8」「1/3」 ・【つかむ】過程では、課題を考えられるように円を配付した。また、分数を知る(1/2を表す)場面では、折り紙を一人に二枚配付した。 ・【解決していく】過程では、正方形(15cm×15cm)の折り紙、円(直径10cm)に切り取った紙、正方形(75mm×75mm)を直角三角形に切った紙、長方形(A6)の紙、24cmの紙テープ、24個のおはじき、3×4のドット図を準備した ・【まとめる・生かす】過程では、過年度年計にある『パターンプロック』を使うことも考えられる。パターンプロックは、カリ管室にある。 ・まとめのテストは、R03は「はこ」のテストの裏面だった。R04(新学社)は、別々だった。R07は「かけ算のきまり」のテストの裏面だった。			

単元	18 はこの形		3月(6時間)	
目標	構成要素に着目して箱の形やさいころの形を考察し、立体図形の特徴を捉える。		【指導事項：B(1)ア(ウ)イ(ア)】	
評価規準	(①知・技)箱の形やさいころの形の特徴を理解している。 (②思・判・表)頂点、辺、面などの構成要素に着目して、箱の形やさいころの形の特徴を考えている。 (③主体的態度)身の回りの立体図形に関心をもち、箱の形やさいころの形を作ったり、その特徴を調べたりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○箱の作り方について考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて _____ サイコロの形やそうでない形について調べて、いろいろな箱を作ろう	○実際に組み合わせて、箱の作り方の見通しがもてるように、課題に記されている四角形と同じ大きさの色画用紙を用意する。	◇立方体と直方体について疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習シート・発言③>
解決していく	2	○「辺」や「頂点」、「面」を知り、色画用紙やストロー、発泡スチロールを使って箱の形を作ったり、家庭から持ってきた箱を観察したりして、箱の特徴を調べる。	○「辺」や「頂点」、「面」に着目することができるように、6色の色画用紙で作った面の他に、辺と頂点に見立てたストローと発泡スチロールを十分用意する。  ○立方体や直方体の特徴を記録できるように、作った立体の写真を撮って載せて、ポイントを書き込める学習シートを用意し、タブレットで配付する。	◇進んで立方体や直方体を作っている。 <行動①>  ◇立方体と直方体では、向かい合う面は同じ形であることや辺や頂点の数はどちらも同じ数あることを記述している。 <ノート①>
・まとめ ・生かす	2	○工作用紙を使って、立方体や直方体を作成する。また、単元の振り返りを行う。	○立方体や直方体を作成できるように、長さの例を提示する。  ○はこの形の学習を通して学んだことの達成感を感じられるように、工作用紙を一人二枚配付し、立方体と直方体を作成する時間を十分確保する。	◇工作用紙で立方体や直方体を作ったり、単元の振り返りに分数を用いるよさを記述したりしている。 <行動・学習シート①②③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
<b>【備考】</b> ・用語・記号 「面」「へん」「ちょう点」 ・準備物「空き箱」「(6色)色画用紙」「工作用紙」 ※箱は、直方体と立方体を1つずつ用意してもらえるよう、学年通信で家庭にお願いする。 ※色画用紙を6色用意し、箱作りができるように6つの四角形を作る。長方形(10cm×7cm, 10cm×4cm, 10cm×5cm, 7cm×4cm, 7cm×5cmの5つ)、正方形(5cm×5cm) ※工作用紙を一人に2枚ずつ用意する。(「まとめ・生かす」過程で使う) ・辺や頂点に着目して箱を作る際は、カリ管室にある教具(ストロー、モール、発泡スチロール玉)を使う。(ストローは10cm, 7cm, 5cm, 4cmの4本) ・過年度年計にある『すごろくゲーム』に切り替えて、実施することも考えられる。				

算数科 2年

○諸検査について（全1時間）

時間	内容
1	OCRT学力検査（算数）を行う。